

# 「ヨハネ 11章 25節」

ヨハネ 11 : 25~ 26

## ■ 教会

『天の御国は畑に隠された宝のようなものです。その宝を見つけた人は、それをそのまま隠しておきます。そして喜びのあまり、行って、持っている物すべてを売り払い、その畑を買います。』  
マタイの福音書 13章 44節  
クリスチャンというのは畑に隠された宝を見つけ、その畑を買うような人生だとメッセージでお話しされました。  
聖書にこんな話があります。「ある人が土の中、畑の中に埋められた宝を管理を任されていた地主の土地で見つけました。その人は、宝を見つけたことをすぐに地主に知らせるのではなくて、そのまま隠しておきました。その人は、自分の持ち物を全部売り払ってそのお金でその畑ごと購入し宝を手に入れたのでした。」天の国はそれほどまでしても手に入れる価値がある。ということのたとえ話です。そして、この天国が教会なのです。  
この天国=教会にはどこにも売っていない大切な自由、真理、喜び、愛があるのです。

## ■ 大江健三郎

日本の数々の文学賞を受賞し、ノーベル文学賞まで受賞した大江健三郎が子どもにも大人にも作れる人生の習慣のアドバイスを書いた本『『新しい人』の方へ』にこう書かれています。  
キリストが十字架に架かって死ぬことで、対立する 2 つの事を自分の肉体を通じて、新しい人に造り上げ本当の和解をもたらしました。私はただ十字架の上で死なれた、そして『新しい人』とされたイエス・キリストがよみがえられたということ、つまり再び生きられて、弟子たちに教えを広めるよう励まされたということ、を人間の歴史でなにより大切に思っています。」とこのように、彼はイエス・キリストの生き様と御言葉がこの世で最も大切な出来事だと書いています。そして、かけがえのない、最も大切な「宝」なのです。

## ■ ボンフェファー

ナチス・ドイツの独裁者アドルフ・ヒトラーの暗殺計画に加担したとして、若くして処刑された、ドイツ人神学者ボンヘッファー彼が残した有名な言葉があります。それは、「これが私の最後の人生です。けれどもこれは始まりにすぎません。所有するものの中で、最も大切なものは「時間」である、何故なら「時間」は取り戻すことのできないものだから」と彼は言いました。だから大切に過ごさなければなりません。

## ■ 神様は絶対に裏切らない

聖書は、人生の目的について語っているもので、人生の道標であるとメッセージで話されていました。ロシアが昔、シベリアの強制収容所に囚人を送って、拷問をしました。  
拷問の内容は、一日中石臼に砂を入れてかつがせる、二つのバケツの水を交互に入れ替えさせる等、なんの意味もないことをやらせたのです。人は目的もわからず、意味がないことをやらされ続けると、どうなるでしょう。心が壊れてしまい、歩む道さえ見失ってしまうのです。人間は、思春期になると自分は一人ぼっちだと悩み始めます。大人になると親の欠点も見えてくるので、親を尊敬しなくなります。そうすると、次第に友達に依存するようになります。しかし、その中で失恋もし、裏切られる経験をし、しかし、裏切られても、頼りがいもなくとも、人に頼らざるを得ないようになっていきます。  
しかし、聖書は違います。横の関係ではなく、縦の関係の方で、絶対的な相対的な関係です。神様は絶対に裏切らない方なのです。だからイエス様を知るとそこから人生が開けてきます。メッセージを聴き、神様に祈るのです。すると神様が私たち一人ひとりに

目的を与えてくださり、導いてくださいます。自分にとっては意味のない様に思える事でさえも、素晴らしい気づきや祝福に変えてくださるのです。

## ■ I LOVE YOU

人間の世界は I LIKE YOUの世界です。私はあなたが好きです。これは「好き」という条件が必要です。きれいだから、優しい、だから愛します。このように「だから」という条件が付きます。条件は壊れる時が来ます。どんなに美しくきれいな人でも年をとればしわも増えてくる。この現象は仕方がないです。条件で愛した人、好きになった人は、その条件がなくなったら、もつと条件のいい人に移っていきます。

I have you 私はあなたのものこれも同じです。ですから時間と共に飽きてしまいます。

本当の愛というのは、I LOVE YOU です。イエスキリストの愛なのです。

## ■ 「小林富次郎」ライオンの創業者

埼玉に生まれた富次郎は、16歳で新潟から上京し、東京の石鹸工場に入社します。その後、海外への夢を抱き、神戸にあるマッチを製造する会社に入りました。21歳になった富次郎は事業にも情熱を注ぎます。マッチの軸を製造し、世界に輸出しようと宮城の石巻に工場を作ります。ところが創業直前、大洪水が石巻を襲い、すべての機械と原木が流されてしまいます。しかも、流された原木が大きな被害を与え、激しい非難を浴びたのです。富次郎は、自殺を決意します。しかし、川に飛び込もうとしたその時、ある聖書の言葉が心に響いたのです。

「すべての訓練は、そのときは喜ばしいものではなく、かえって苦しく思われるものですが、後になると、これによって鍛えられた人々に、義という平安の実を結ばせます」新約聖書 ヘブル人への手紙 12章 11節

それは、神戸で洗礼を受けた時の牧師から贈られた、はがきの言葉でした。生きる力を得た富次郎は東京に戻り、1891年、小林富次郎商店を創業し、歯磨き粉を発売するようになります。当時既に、多くの歯磨き粉がありましたが、富次郎は粉末をきめ細かくし、イギリスから香料を取り寄せ、味を良くするなど品質を追求します。「獅子印ライオン歯磨き」というネーミングとともに、その歯磨き粉は大ヒットします。そして、富次郎は事業の中でも、キリストが教える愛の精神を発揮し、人々と地域に貢献していったのです。そして 58歳で天国へ還って行きました。彼の葬儀は、フィルムで残された日本で唯一の最も古い葬儀の映像として、国の重要文化財としていまでも残されています。

## ■ さいごに

我々の人生一度しかありません。今日という日もかえっては来ません。

だから聖書では、今日、御声を聞いたのならばうなじを頑なにしてはならない、神を信じ私を信じなさい。とイエス様はあなたに声をかけておられます。

一度しかない人生です。喜びにそして、光に満ちた人生になるようにイエス様あなたがリードしてくださっています。そして、いつも私たちのそばで声をかけてくださっています。

その声を聞きその声を信じて今日も歩んでいきましょう！！

(要約者:岡本 英樹)

(2023年4月9日)